

DMARC運用の現状

— 勉強会等の参加者に対する 受信側・送信側アンケート結果 —

MRI 三菱総合研究所

2025.11.04

株式会社三菱総合研究所 安全保障政策本部

小川 博久

目次

R6年度 DMARC効果検証アンケート	3
R6年度 DMARC効果検証アンケートの概要	4
R6年度 DMARC効果検証アンケートの項目	5
R6年度 DMARC効果検証アンケート	6
R6年度結果とR7年度結果の比較	23
R6年度結果とR7年度結果の比較	24

R6年度 DMARC効果検証アンケート

- 実施日: 2025年2月10～20日

アンケート調査の概要

- 調査目的

- 本調査は、DMARC導入の効果を検証する前段階として、勉強会等の参加者が抱える課題や不明点、情報不足の実態を把握することを目的として実施しました。
- これにより、DMARC導入の効果を検証するために課題解決に向けた支援や情報提供を検討します。

- R6年度 DMARCの効果検証アンケート調査

- 実施期間：2025年2月10～20日
- 調査対象：R5年度 体験コース参加者、R6年度 勉強会参加者（有効回答数:47）

- R7年度 DMARCの効果検証 アンケート追跡調査

- 実施期間：2025年10月14～21日
- 調査対象：R5年度 体験コース参加者、R6年度 勉強会参加者（有効回答数:21）
* 回答数が極端に少ないものは、説明を割愛します。

R6年度 DMARC効果検証アンケートの項目

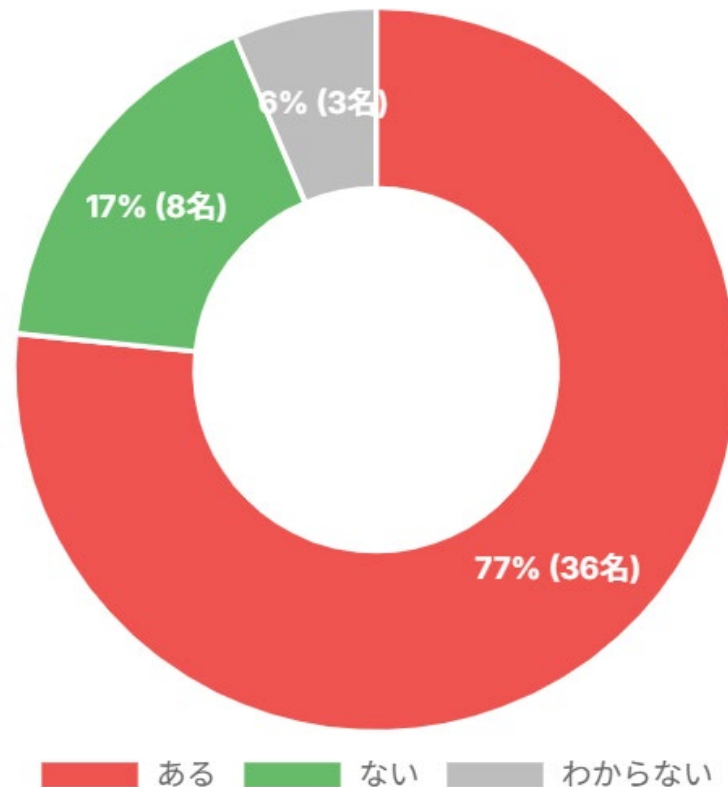
送信側・受信側の各々の状況を確認

分類	No	設問文
前提	1	貴社では、メール送受信に使用していないドメインやサブドメインがありますか？
	2	メール送受信に使用していないドメイン・サブドメインに対し、DMARCの設定を行っていますか？
	3	貴社事業とメールサービスの関係について適切なものを以下からお選びください。
送信	1	貴社ではDMARC ポリシー(pタグ)をどのように設定していますか？
	2	ポリシーを強化する(p=reject または p=quarantine を設定)ために必要な情報はありますか？
	3	前問で「ある」と答えた方は必要な情報を具体的に記入してください
	4	貴社ではAggregate レコード(rua)を設定することで受信できるDMARC レポートを活用していますか？
	5	前問で「1. DMARC レポートを受信し、分析や活用をしている」と答えた方は具体的な分析・活用の方法を記入してください
	6	前問で「2. DMARC レポートを受信し、分析や活用をしていたが、今はしていない」と答えた方は、分析・活用していた当時の具体的な分析・活用の方法と、現在は分析・活用をしていない理由を記入してください
	7	前問で「3. DMARC レポートは受信しているが、具体的に活用はしていない」および「4. DMARC レポートを受信していない(Aggregate レコードを設定していない)」と答えた方は、分析・活用していない理由を記入してください
	8	貴社では正規メールをDMARC Pass させるためにどのような対策を施していますか？
	9	前問で「1. SPF・SPF アラインメントのみを通すようにしている」および「2. DKIM・DKIM アラインメントのみを通すようにしている」と答えた方は、その理由を記入してください
	10	貴社ではメールの転送やメーリングリストについてもDMARC Pass するような対策をしていますか？
受信	1	貴社では受信したメールにDMARC フィルタを設定していますか？ ※「DMARC フィルタ」とは、DMARCの認証結果によるフィルタリングを指します
	2	前問で「DMARC フィルタを設定している」と答えた方、貴社のDMARC フィルタは、送信側ドメイン名で提示されたポリシーに従う設定となっていますか？
	3	貴社では rua ないし ruf の表示があるドメイン名からメールを受信した場合、レポートを作成・送信していますか？
	4	貴社では、自社内でメールサービスの運用を行っていますか？
	5	前問で自社内でメールサービスを運用していると答えた方は、転送やメーリングリストへの具体的な対応方法を記入してください

第1章 ドメイン・サブドメインについて

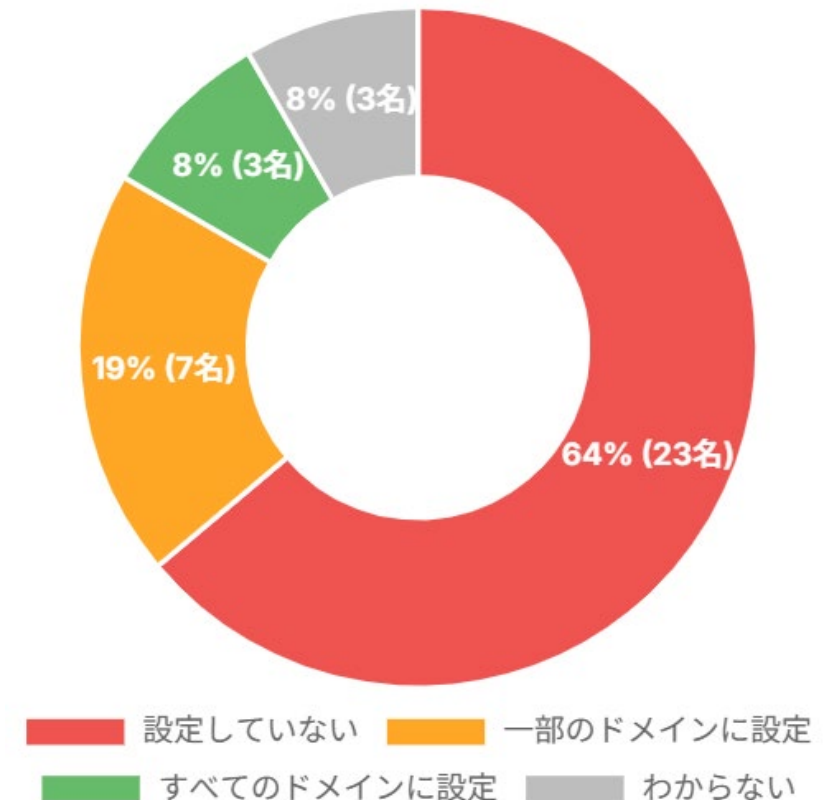
設問1 メール送受信に使用していない ドメイン・サブドメイン

回答者の大多数が、現在メール送受信に使用していないドメインやサブドメインを保有していると回答。



設問2 メール送受信に使用していない ドメイン・サブドメインに対してのDMARC設定

未使用ドメインを保有しているにもかかわらず、その64%がDMARCを「設定していない」と回答。

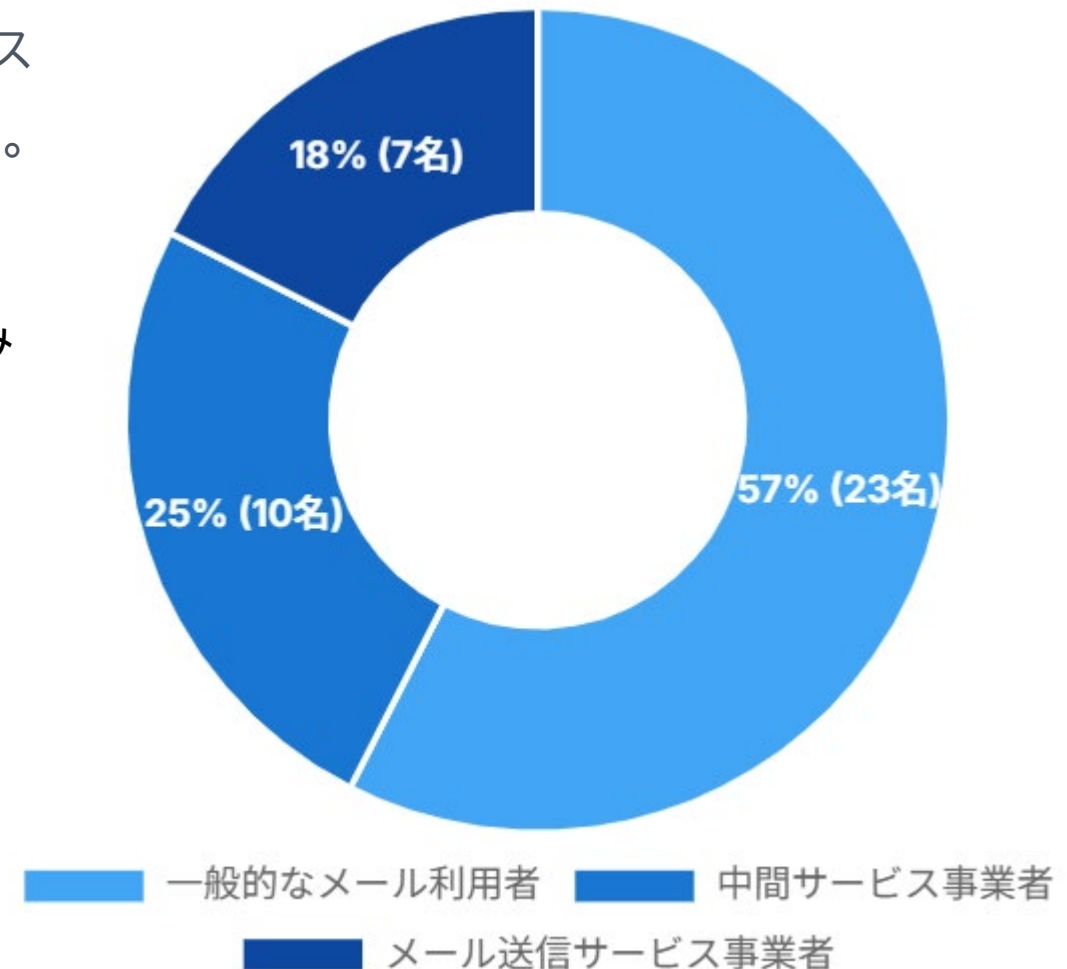


第1章 ドメイン・サブドメインについて

設問3 貴社事業とメールサービスの関係

回答者の58%が「一般的なメール利用者」であり、メールサービスの専門事業者以外にもDMARCへの関心と課題が広がっている。

- 一般的なメール利用者 …… メール運用せず利用のみ
- 中間サービス事業者 …… MSA、MTA、MDA等
- メール送信サービス事業者 …… ISP、ASP、CSP等

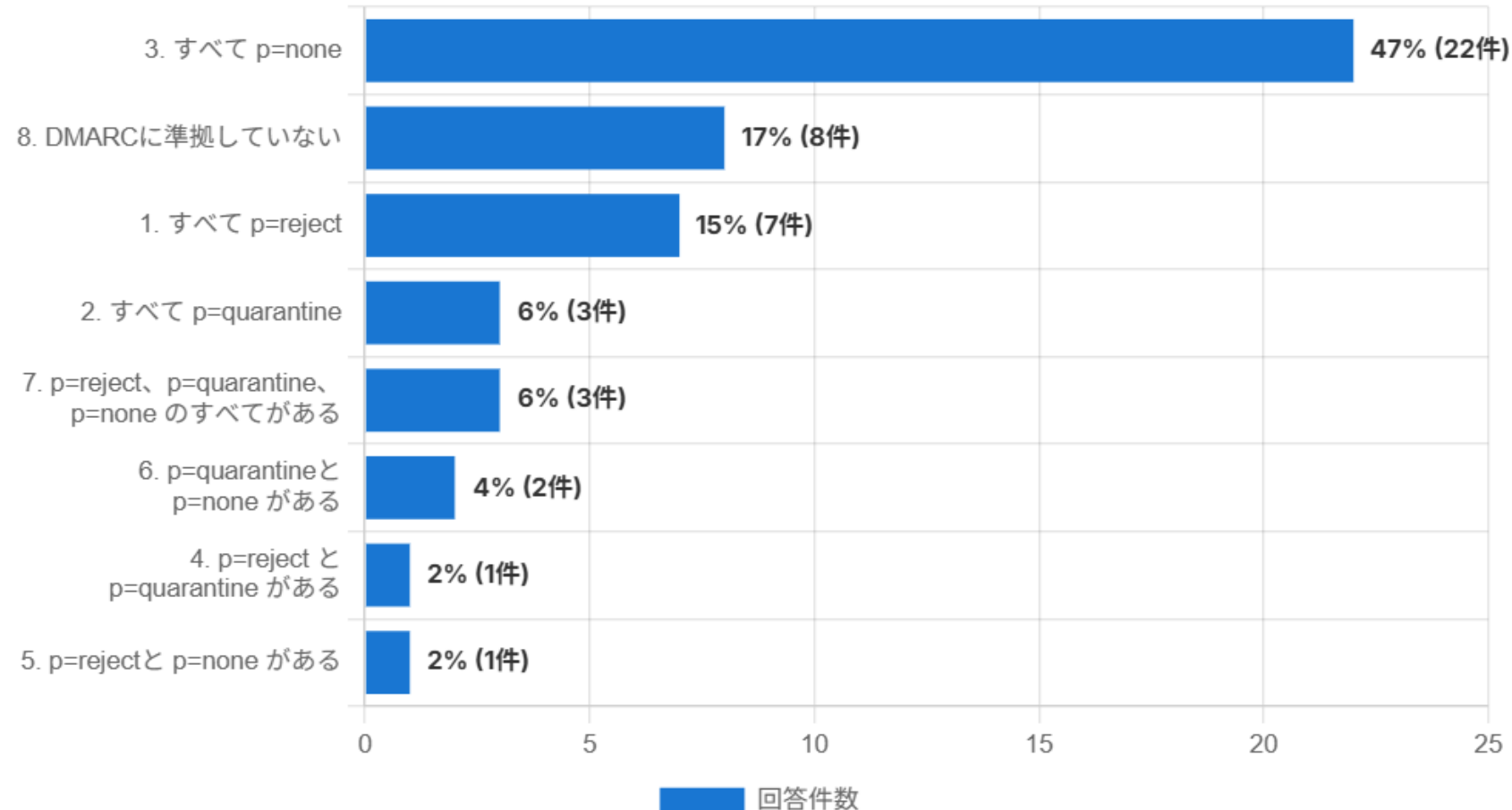


第2章 送信側

設問1 DMARCポリシー(pタグ)の設定方法

最も多かった設定は「すべて p=none」(監視モード)で22件でした。

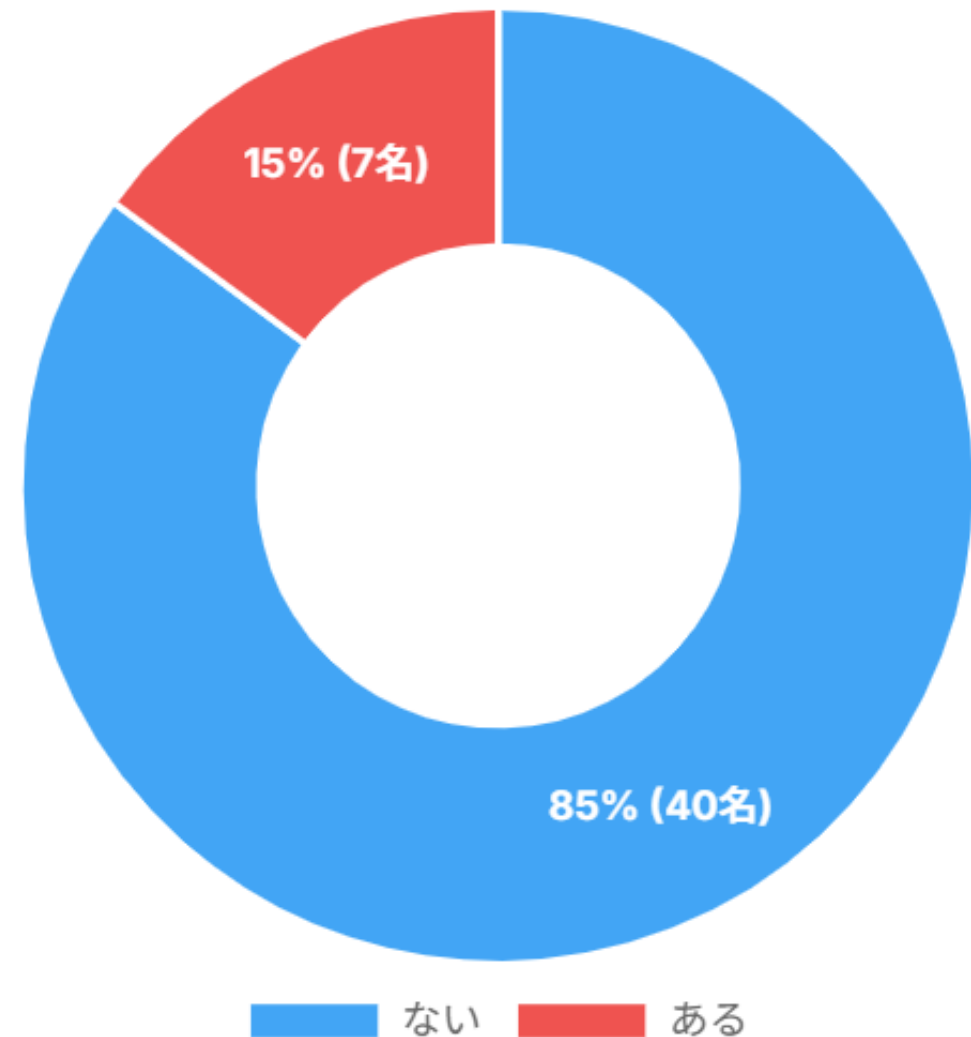
次いで「DMARCに準拠していない」が8件となり、強制力のある“reject”や“quarantine”はまだ少数派。



第2章 送信側

設問2 ポリシーを強化する(p=rejectまたはp=quarantineを設定)ために必要な情報

ポリシーを p=reject や p=quarantine に強化するために追加情報が「必要ない」と回答した人が85%を占めた。これは、必要な情報が既に揃っているか、強化の予定がないかのどちらかを示唆している。



設問3 設問2で「ある」と答えた方の必要とする具体的な情報

ポリシー強化(p=rejectまたはp=quarantine)には、レポート運用や通知方法など、具体的な知見を求める声がある。

- DMARC pass率
- メールにて利用しているサブドメイン
- rejectおよびquarantineが適用されたメールの送信元に対する通知方法、quarantineが適用されたメールの隔離先を指定する方法
- SalesforceといったSaaSの配信や、代理店からの営業活動メール等によるヘッダにおけるドメインの利用
- DMARCレポートの見方やレポート確認運用を確立すること
- DKIM署名あり。送信に利用しているメールサーバのIPはほぼ把握できている。ただし、過去に設定したネットワーク機器等がメールを出している可能性がありポリシーの変更を行っていない
- 発行されたレポートを確認する

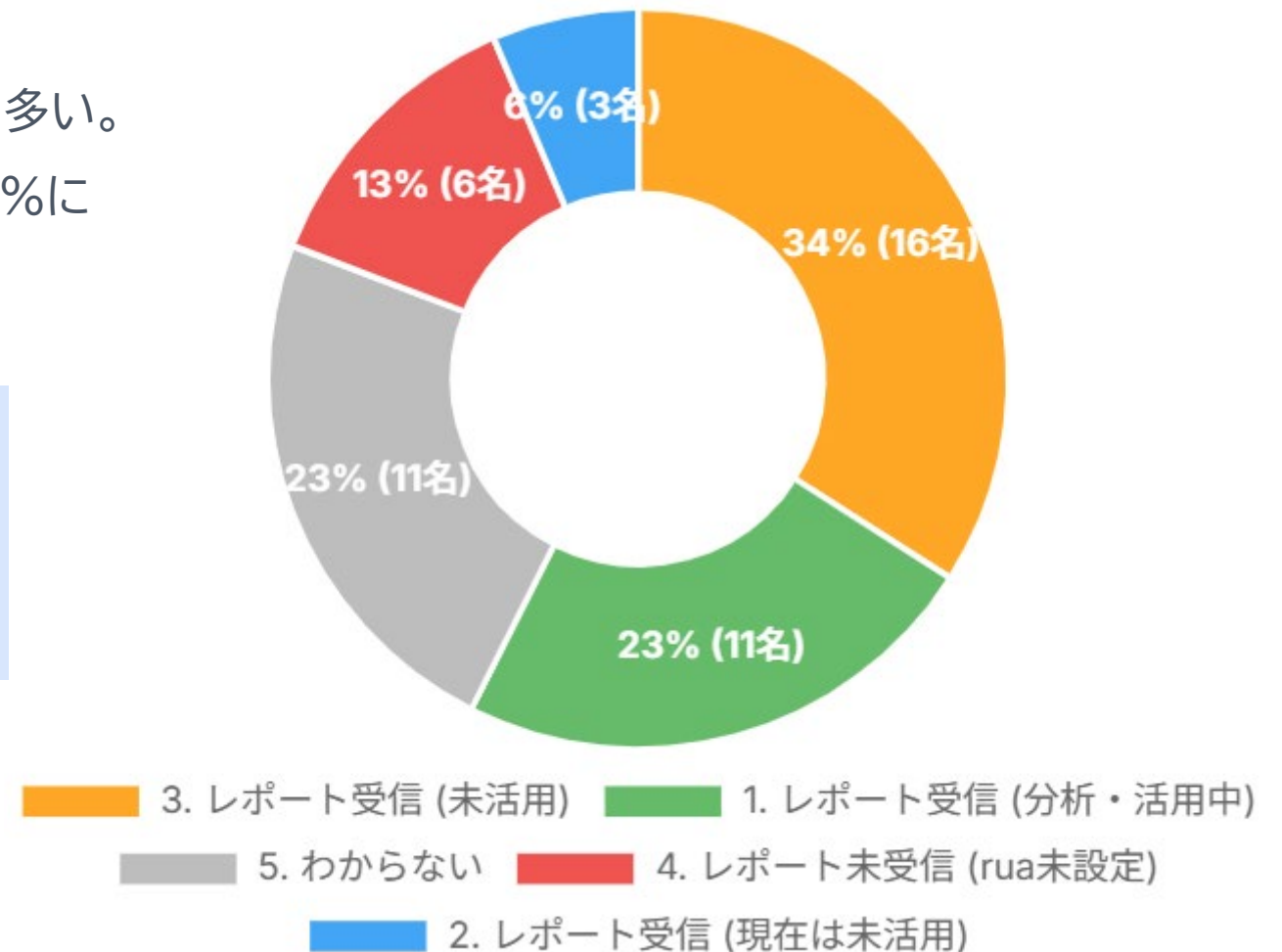


第2章 送信側

設問4 Aggregateレコード(rua)を設定することで受信できるDMARCレポートの活用

レポートを「受信しているが活用していない」が34%と最も多い。
DMARCレポートを積極的に「分析・活用している」のは23%に
留まり、レポートの価値が十分に引き出せていない状況。

1. DMARC レポートを受信し、分析や活用をしている
2. DMARC レポートを受信し、分析や活用をしていたが、今はしていない
3. DMARC レポートは受信しているが、具体的に活用はしていない
4. DMARC レポートを受信していない(Aggregate レコードを設定していない)
5. わからない



第2章 送信側

設問5 設問4で、「1. DMARCレポートを受信し、分析や活用をしている」と答えた方の具体的な分析・活用の方法
有償・無料の分析ツール(dmarcian, PowerDMARCなど)や自社ツールの利用、コンサル導入など、
多様な分析手法が用いられている。

- 有償の分析ツールを使用し、DMARCレポートの分析をしている
- dmarcianの無料版を使っている
- メールにて利用されているサブドメインの洗い出しと利用サブドメインの制限(抑え込み)
- 自社で作成した分析ツールでレポートを確認している
- dmarc-visualizerを利用した分析
- OSSの分析ツールを導入、DMARCレポートの確認し現状の把握を行っている段階
- DMARC25導入し、コンサルにずばずば意見を言ってもらって設定を変える
- dmarcian無料版
- レポートサービスの利用
- PowerDMARC
- 弊社を騙るフィッシングメールの有無等



第2章 送信側

設問6 設問4で、「2. DMARCレポートを受信し、分析や活用をしていたが、今はしていない」と答えた方の、分析・活用していた当時の具体的な分析・活用の方法と、現在の分析・活用をしていない理由

モニタリング工数がコストに見合わない、ポリシー変更時の影響調査が難しいなど、運用リソースとコストの課題。

- 分析ツールの利用料がコスト負担のため
- 分析や活用にはそのためのツールやサービスの導入が必須であるが、まだ導入するツールやサービスを決定できていない(分析や活用は実証実験中に実施していた)
- 当初はp=noneでDMARCレポートの分析や活用をしていた。その後、p=quarantineにDMARCポリシーを変更しました。DMARCポリシー変更後、一定期間はDMARCレポートの分析や活用をしていたが、モニタリング工数がコストに見合わないため、モニタリングを中止した。p=quarantineの状況やp=rejectにするためにはより高度な分析が必要である為、分析ツールの導入を社内提案したが、こちらもコストに見合わないと判断され導入を見送り現在に至っております

第2章 送信側

設問7 設問4で、「3. DMARCレポートは受信しているが、具体的に活用はしていない」および「4.DMARCレポートを受信していない(Aggregateレコードを設定していない)」と答えた方の分析・活用していない理由

よい集計ツールがない、レポート運用整理ができていない、担当者が多忙など、運用体制の課題が顕著。

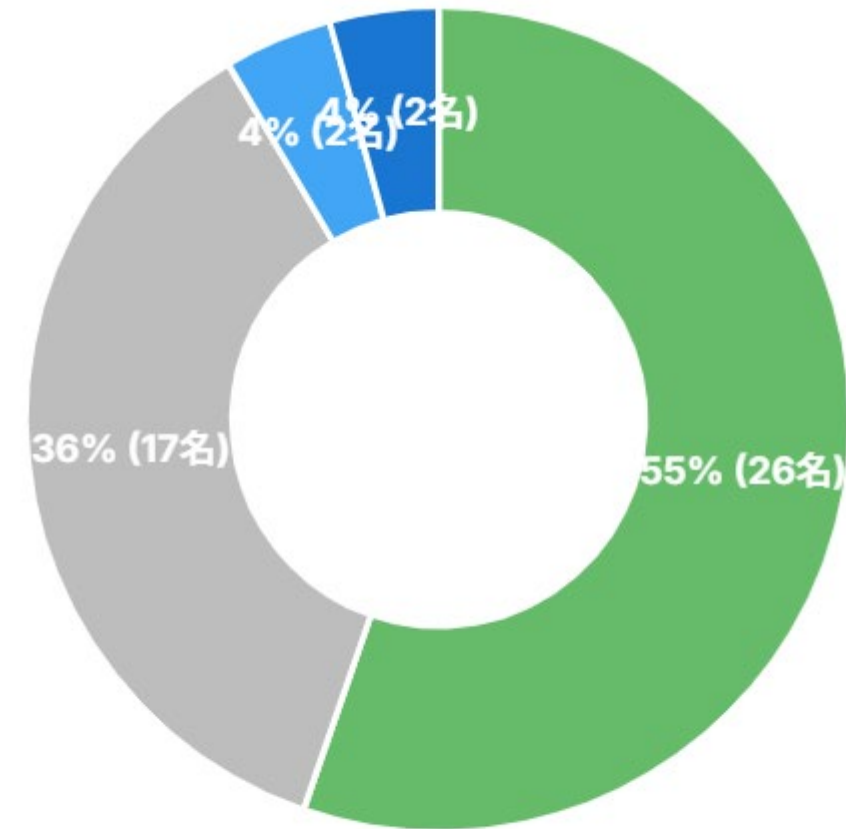
- レポート分析をしたいが、よい集計ツールがない、みつからないできればjsonデータをそのままインポートできるようなものが欲しい
- Google・米Yahooのガイドライン更改に合わせて導入を行ったものの、DMARCレポートにかかわる運用についての整理ができなかった。(どの事業者が？どの頻度で？どのような形式で報告を行うか？など)そのため、現状では rua/ruf 無しでの運用を行っている
- メールサービス提供する機能(DMARCレポートのビューア)の活用方法がよくわからないため
- レポートの分析結果を見ているが、別IPからのなりすましメールがあるのは把握しているが、それに寄って何を行えば良いかわからないため
- Googleのガイドライン対策のために、取り急ぎ p=none で運用開始したが、その後の対応方針を決めかねている
- DMARCレポートの送付先に割り当てられた担当者が多忙のため、解析まで手が回っていない。レポートの解析ができていないため、ポリシーの変更もできていない
- Googleのガイドライン対策のために、取り急ぎ p=none で運用開始し、そのままの状況である
- p=none で運用開始したが、ポリシー変更時の影響調査ができておらずその後の対応方針は未定
- なりすましメールが報告されているが、こちらでは一切手の打ちようがない
- DKIMおよびDMARCを未導入。現在テスト用サブドメインで検証検討中
- レポートを自動集計してサマリーで報告してくれるシステムが無いから
- DMARCレポートを受信・分析するための環境が整っていないため
- 多量のレポートを確認する工数をまかなえない
- 人員不足のため対応が後回しになっている
- 今後の対応を検討中
- ツール導入検討中
- 面倒、わからない
- 単に今後活用予定のため
- 記録として保存のみしている
- 活用するつもりがない

第2章 送信側

設問8 正規メールをDMARCPassさせるための対策

55%がSPF・DKIM両方のアラインメント通過を対策している一方で、36%もの回答者が自社の対策状況を「わからない」と回答。対策の複雑さがうかがえる。

1. SPF・SPF アラインメントのみを通すようにしている
2. DKIM・DKIM アラインメントのみを通すようにしている
3. SPF・DKIM 両方のアラインメントすべてを通すようにしている
4. わからない



第2章 送信側

設問9 設問8で、「1. SPF・SPF アラインメントのみを通すようにしている」および「2. DKIM・DKIM アラインメントのみを通すようにしている」と答えた方の理由

SPFの文字数制約やメール転送の影響を避けるため、DKIMに注力する傾向。

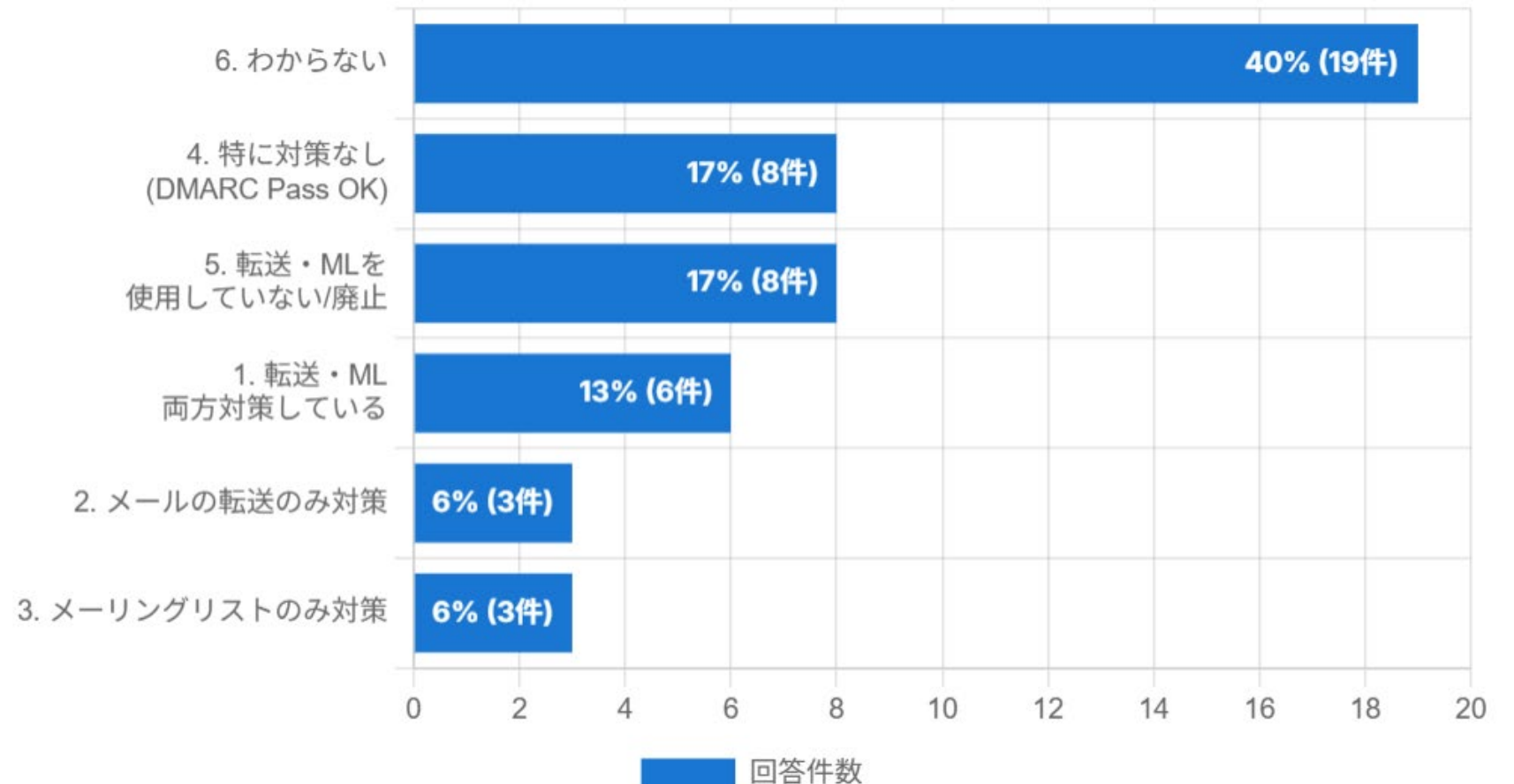
- 複数のクラウドサービスなどを利用してメール配送を行っていますが、SPFのTXTレコードは登録に文字数などの制約があるためDKIMのアラインメントを通すことでgoogle基準のDMARC判定をクリアするようにしている
- 一部機器において、機器自身から送信するメールのDKIM対応が、機器がまだ対応していないから
- なるべくSPF・DKIMの両方のアラインメントを通すように設定をしているが、メール転送が多い傾向にある為、SPFはあまり有効に機能していない。その為、DKIMに注力して対応する方針としている
- 特に理由はなく、現状でSPFのみ設定すればメールの送受信に問題ないため 将来的にDKIMの設定をする予定

第2章 送信側

設問10 メール転送やメーリングリストに対してのDMARC Passさせる対策の実施

DMARCが失敗しやすいメール転送やメーリングリストへの対策は、「わからない」が19件と最も多く、技術的な難所であることが示唆されています。

1. メールの転送およびメーリングリストの対策をしている
2. メール転送のみ対策している
3. メーリングリストのみ対策している
4. 特に対策はしておらず、どちらもDMARC Pass している
5. メールの転送およびメーリングリストを使用していない（または廃止した）
6. わからない

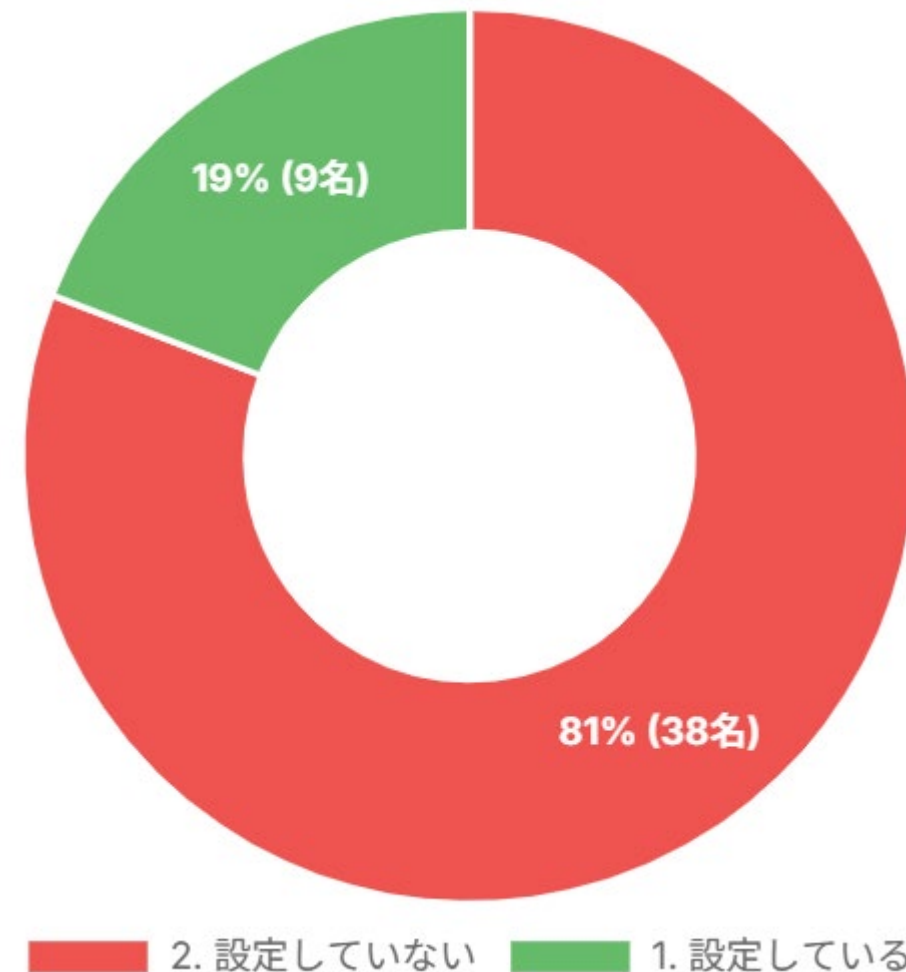


第3章 受信側

設問1 受信メールのDMARC フィルタ*設定

受信側の81%が、DMARCの認証結果に基づくメールフィルタリングを「設定していない」と回答。
送信側の対策が進んでも、受信側がそれを活用しなければ効果は限定的。

*DMARCの認証結果によるフィルタリング

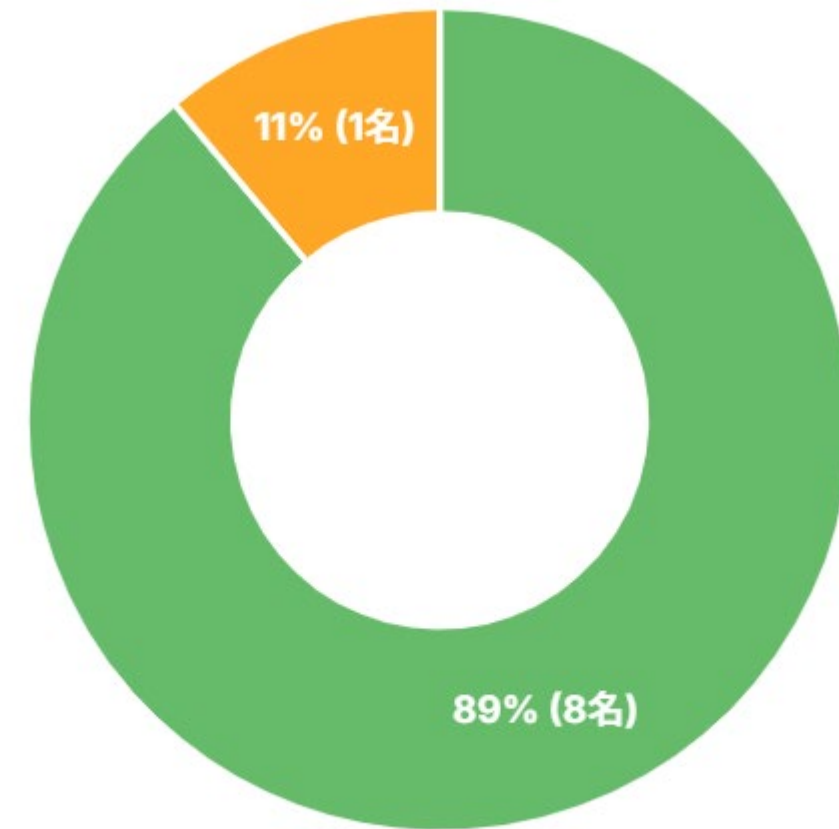


第3章 受信側

設問2 設問1で、「DMARC フィルタを設定している」と答えた方のDMARC フィルタの設定状況

フィルタを「設定している」と回答した少数(9名)のうち、
89%は「送信側のポリシー設定に従う」と回答。
設定者は標準的な運用を行っている。

1. 送信側のポリシー設定に従う
(ただし、DMARC以外の理由でフィルタする可能性がある)
2. 事前設定したドメイン名と扱いの設定により仕分ける
3. すべて特定のポリシー (p=reject 等)と同じ扱いをする



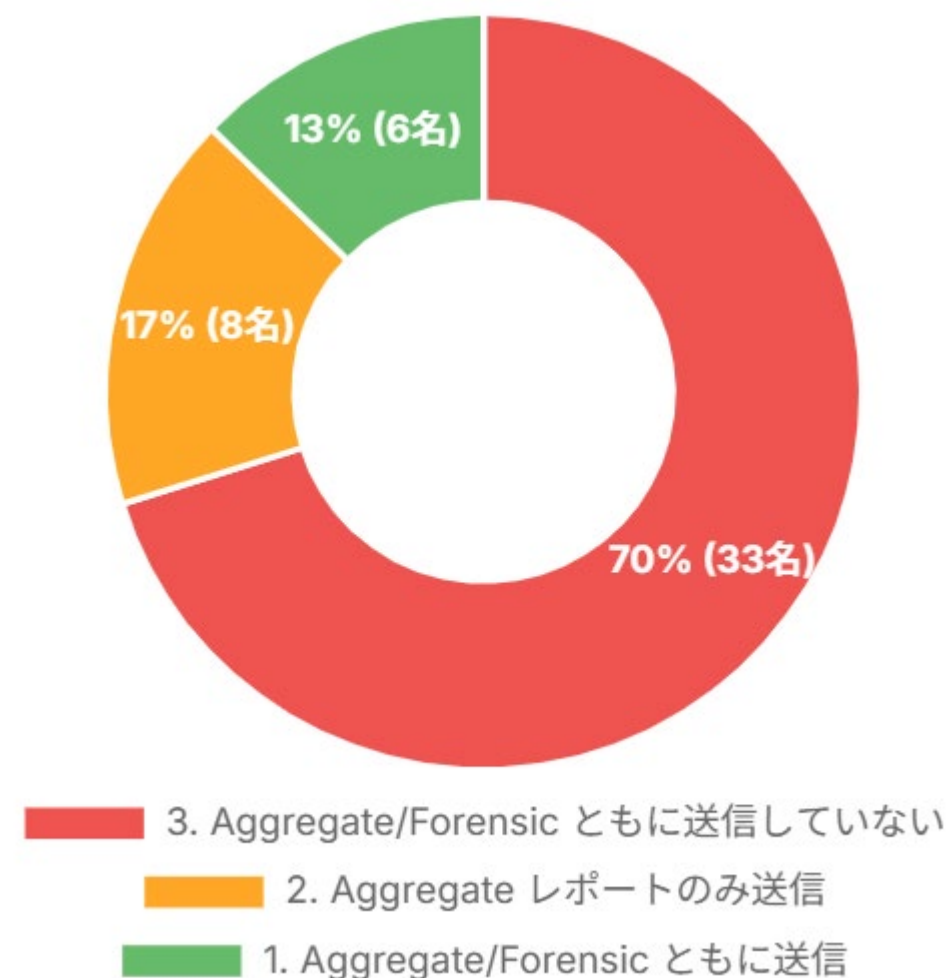
- 1. 送信側のポリシーに従う ■ 2. 事前設定ドメインで仕分け
■ 3. すべて特定ポリシー扱い

第3章 受信側

設問3 rua ないし ruf の表示があるドメイン名からメールを受信した場合のレポートの作成・送信状況

受信側の70%が、送信ドメインの検証結果を集約した Aggregateレポートを「作成・送信していない」と回答。送信側が状況を把握するためのフィードバックが不足している。

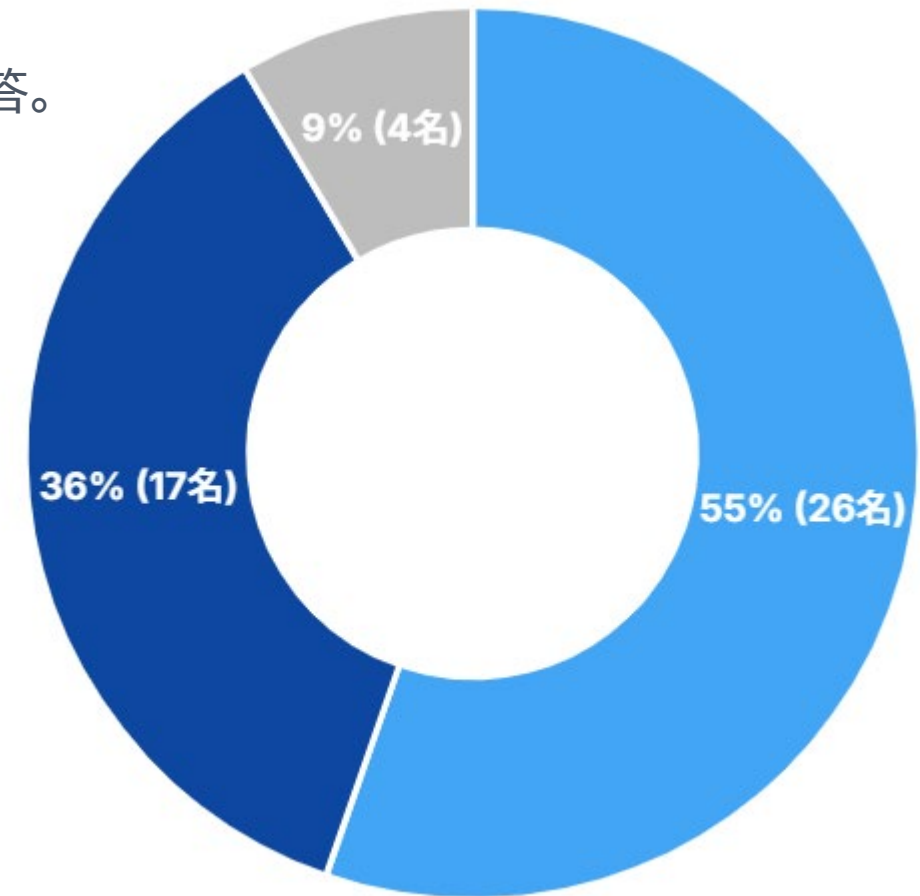
1. Aggregate レポートおよび Forensic レポートともに作成・送信している
2. Aggregate レポートのみ送信・作成している
3. Aggregate レポートおよび Forensic レポートともに作成・送信していない



第3章 受信側

設問4 自社内でのメールサービスの運用

回答者の55%が自社内でメールサービスを「運用していない」と回答。
クラウドサービスや外部ベンダーへの依存が高い。



■ 2. 運用していない ■ 1. 運用している ■ 3. わからない

第3章 受信側

設問5 設問4で、「1. 自社内でメールサービスを運用している」と答えた方の、転送やメーリングリストへの具体的な対応方法

ARC対応準備中や、DKIM署名機能の中継サーバへの実装など、高度な個別対応の検討などがあった。

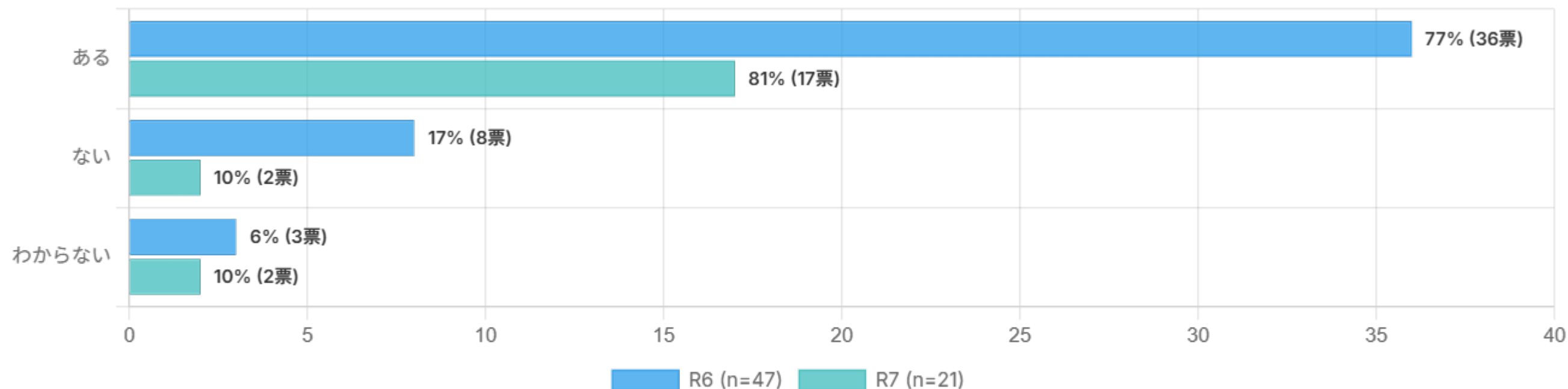
- 機器アラートのメールのみ自社メールサーバ経由であり、転送、メーリングリストは使っていない
- 何もしていない、よって他ドメインからの投稿や転送はDMARCがFailしているはず
- IT部門で実施しているため、詳細は不明(gmail 利用中)
- 特にメーリングリストにおいてはARCに対応するための準備中である。通常のメールの転送についてもARCに対応する予定であるが、そもそも少なくともGmailにおいて、ARCの署名を正しく処理していないようであるため、模索中
- これから検討予定
- 実施していない
- メールサーバ(postfix)の設定によりメーリングリスト・転送機能を実装している。ただし、DKIM署名機能は外部へ送信されるメールの中継に利用する一部のサーバにのみ実装しており、署名機能のないメールサーバからはこれらのサーバへメールを中継し、その際に署名を付加する方式をとっている
- 自社内では、メールの転送およびメーリングリストを使用していない。送信先での、メールの転送およびメーリングリストへの対策は、特にしていない。個人メールアドレスのドメインを reject でなく、quarantineにしているぐらい
- 別部署で担当している為、詳細は不明です
- 運用上メーリングリストは利用者などを管理している。転送は制御しない
- プロバイダのMTA→M365
- 担当ではないので分からない
- 有効な対策の知見がない状況の中で、ARCは有効にしている
- SPFのみ設定している
- メーリングリストは送信者アドレスの差し替えとDKIM署名を行っている。転送については実験的に使用しているため、特に対策は行っていない
- 転送やメーリングリストについてDMARCに関する個別の対応は行っていない。転送自体は極力行わない運用にしている

R6年度結果とR7年度結果の比較

- DMARCポリシーの設定等状況

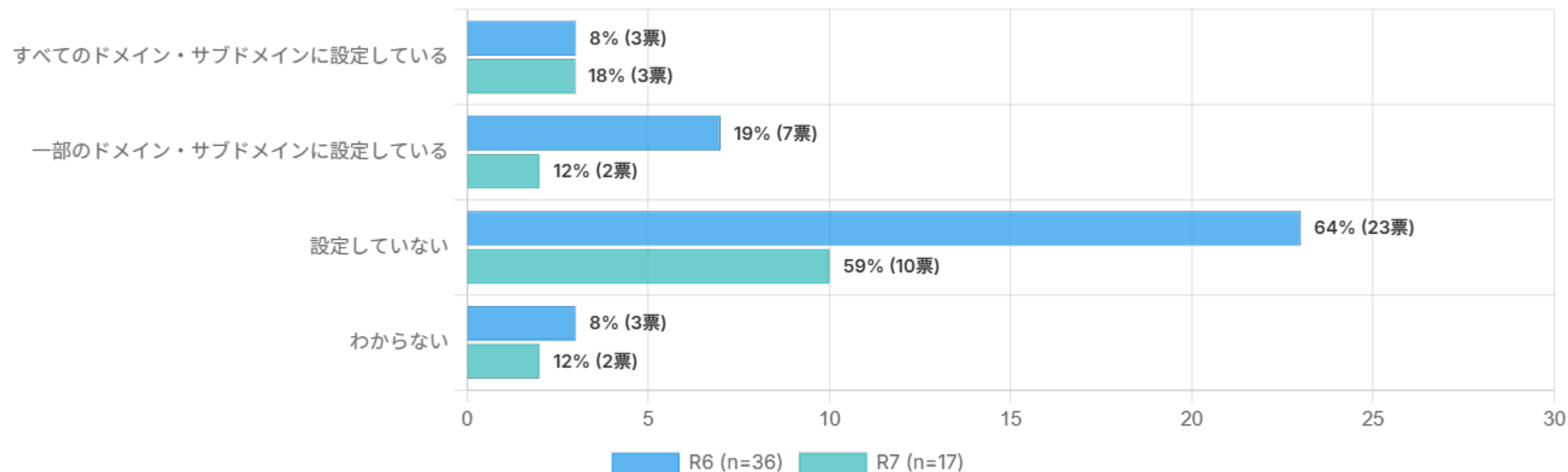
R6年度結果とR7年度結果の比較

メール送受信に使用していないドメイン・サブドメイン



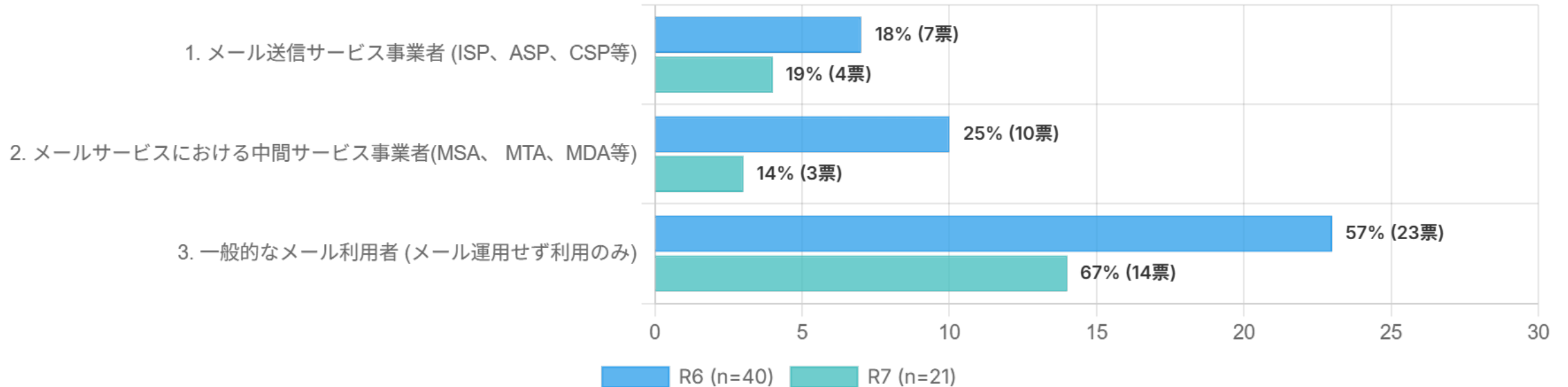
R6年度結果とR7年度結果の比較

未使用ドメイン・サブドメインへのDMARC設定



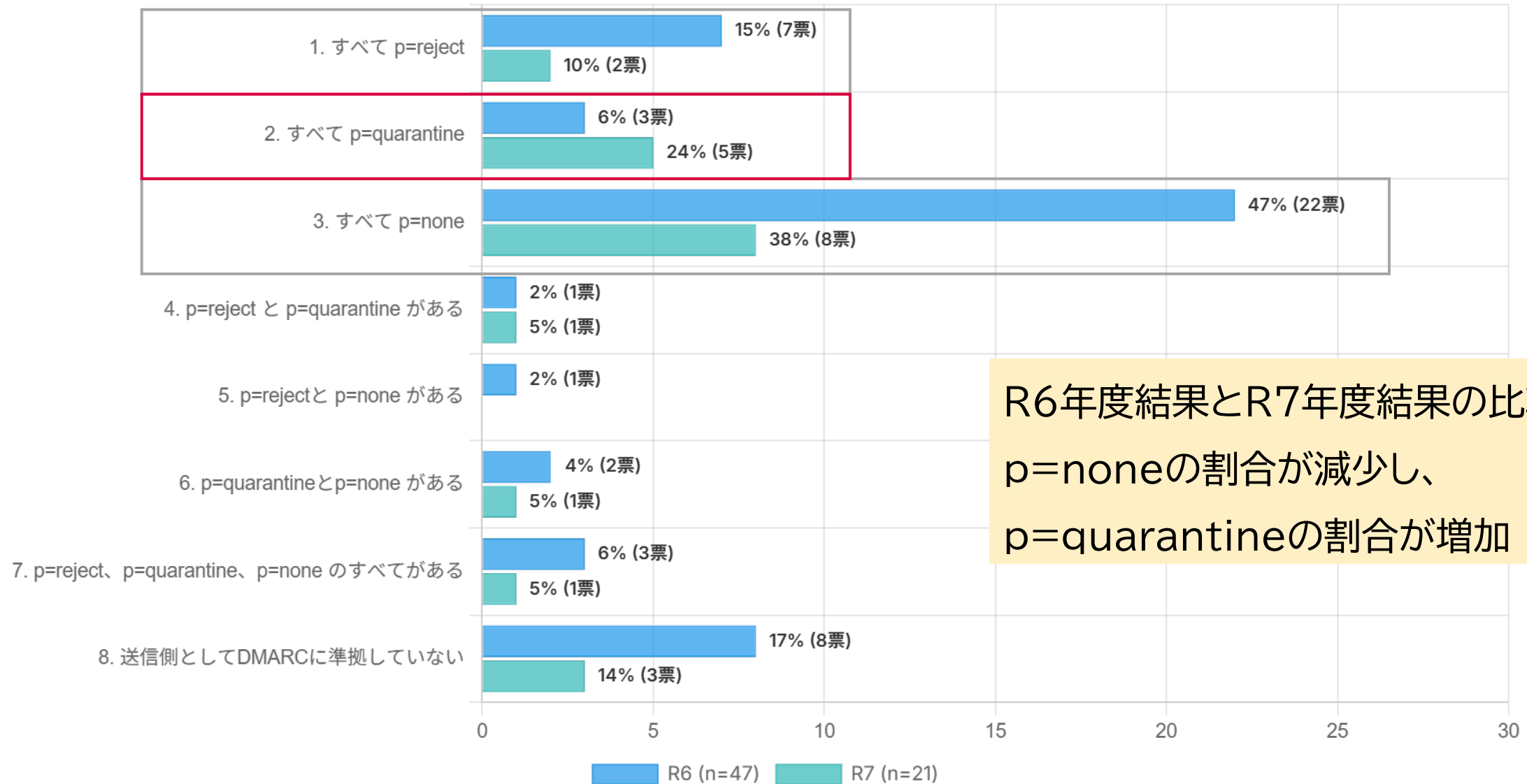
R6年度結果とR7年度結果の比較

貴社事業とメールサービスの関係



R6年度結果とR7年度結果の比較

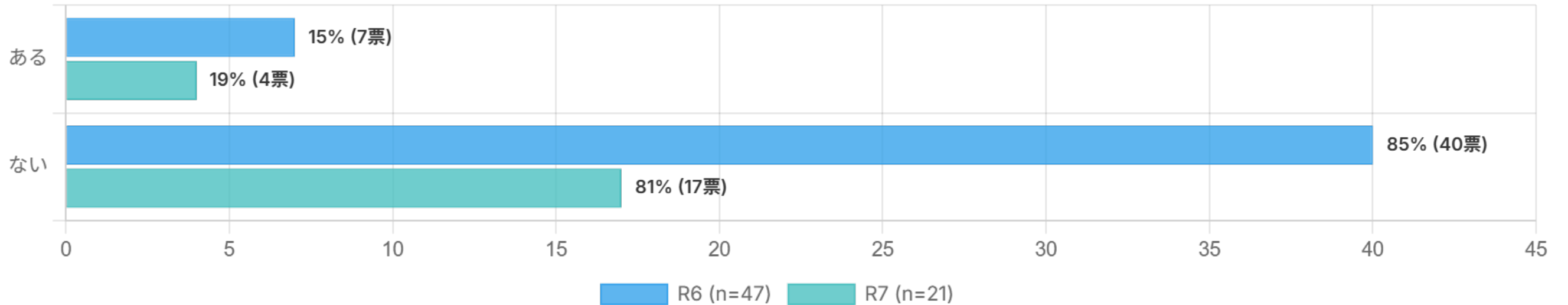
DMARCポリシー(pタグ)の設定方法



R6年度結果とR7年度結果の比較で、
p=noneの割合が減少し、
p=quarantineの割合が増加

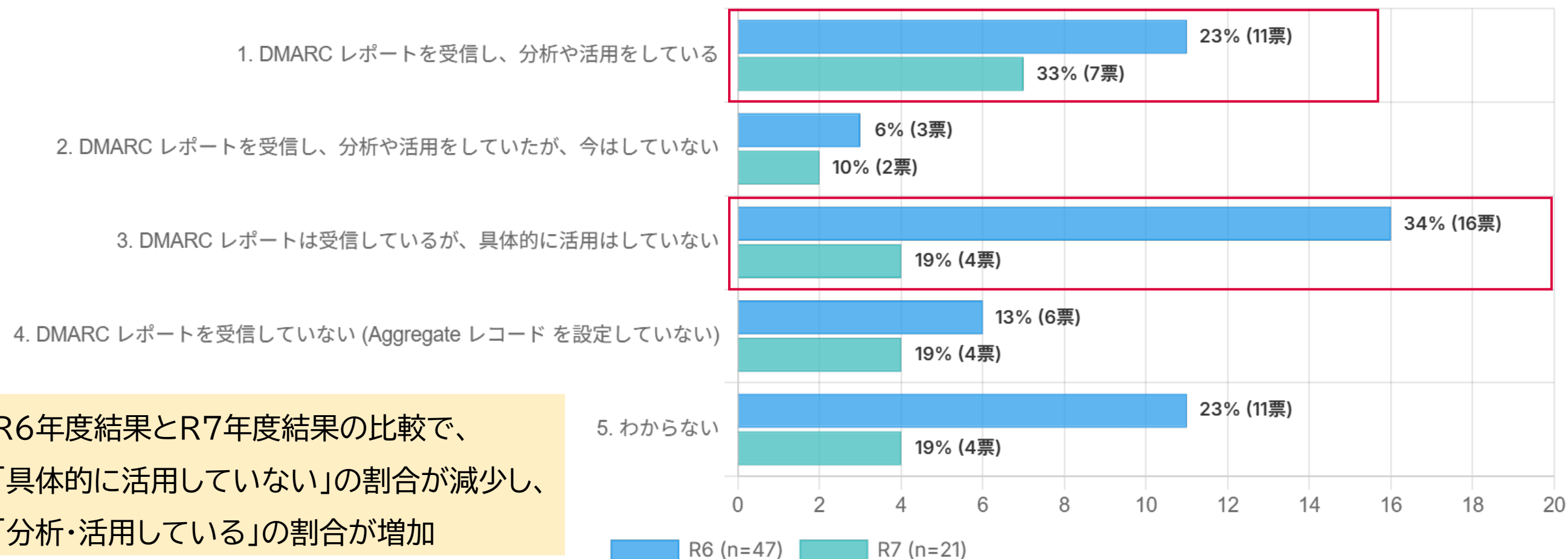
R6年度結果とR7年度結果の比較

ポリシー強化(p=reject等設定)ために必要な情報



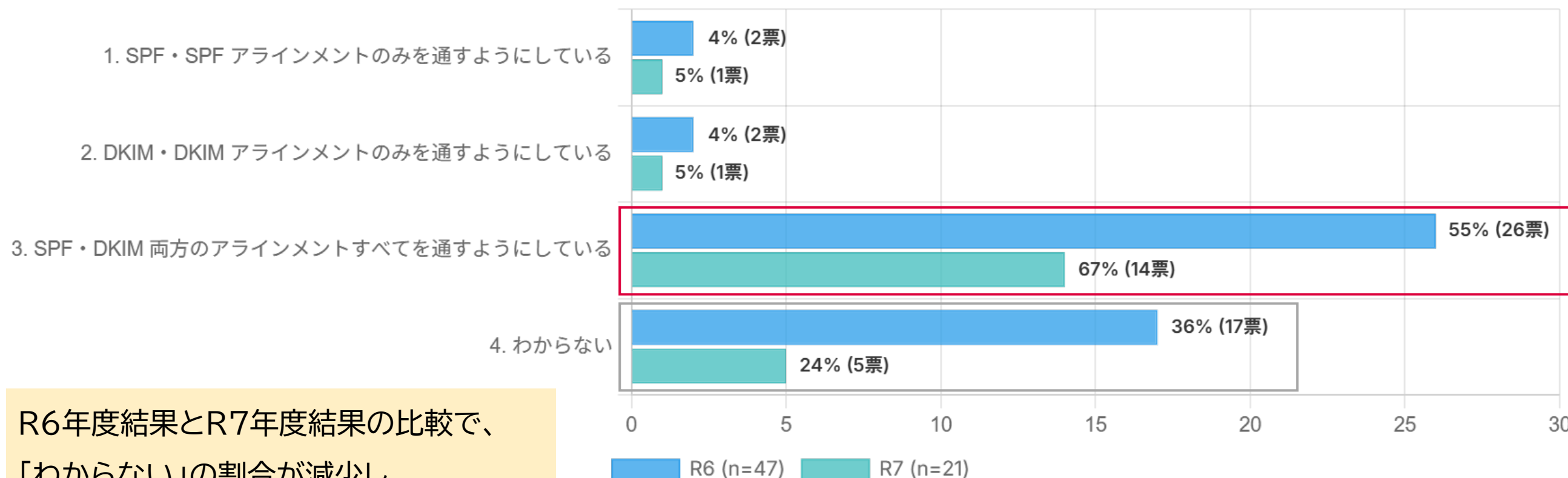
R6年度結果とR7年度結果の比較

Aggregateレコード(rua)のDMARCレポート活用



R6年度結果とR7年度結果の比較

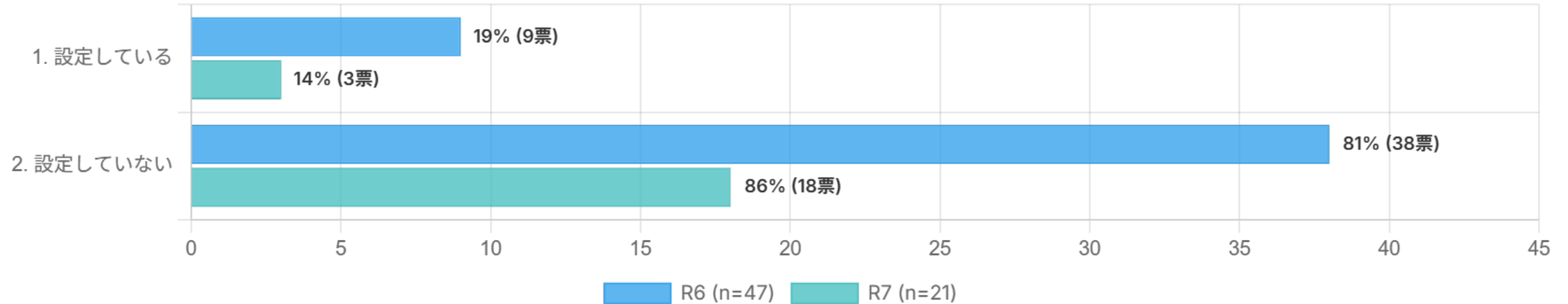
正規メールをDMARCPassさせるための対策



R6年度結果とR7年度結果の比較で、
「わからない」の割合が減少し、
「SPF・DKIM両方のアライメントを通す」
の割合が増加

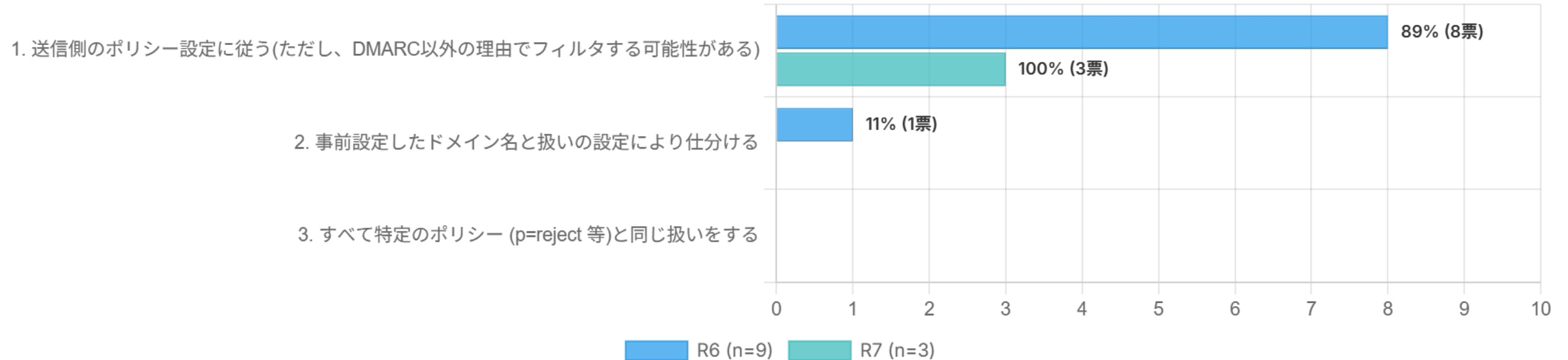
R6年度結果とR7年度結果の比較

受信メールのDMARC フィルタ設定



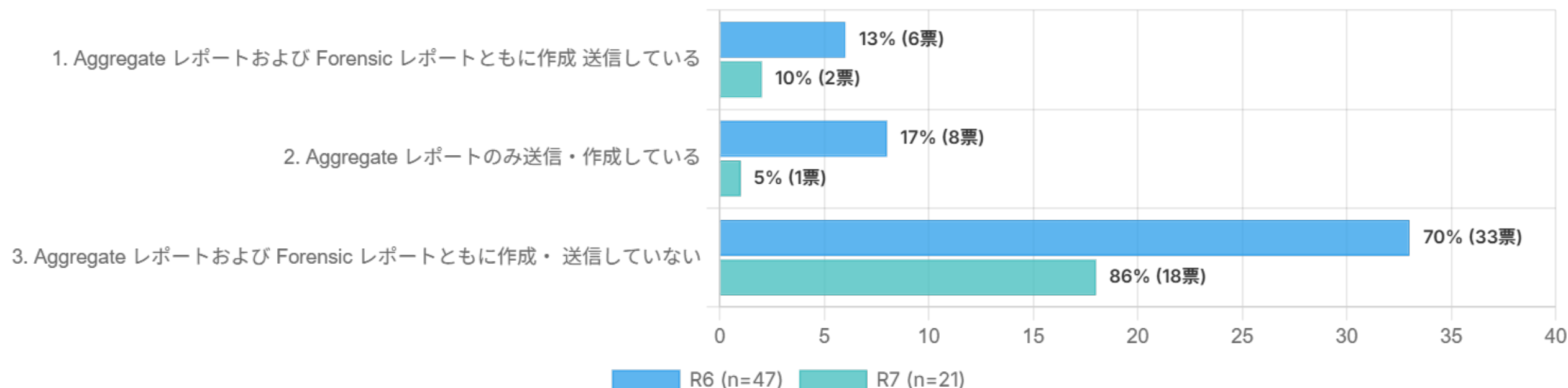
R6年度結果とR7年度結果の比較

DMARC フィルタの設定状況



R6年度結果とR7年度結果の比較

rua/ruf のレポート作成・送信状況



まとめ

アンケート調査結果のまとめ

- DMARCの導入は進んでいるも依然として以下の課題がある。
 - レポートの運用、メール転送(難易度の高い部分)
 - 受信側でのフィルタリング活用
- 本調査結果が、DMARC導入・設定・運用等の参考になれば幸いです。
- 情報提供が足りない内容や、すでに公開情報がある内容も含めどのように紹介・提供するかを今後検討します。